

日本看護協会の 新型コロナウイルス感染症に関する 取り組みについて

～本会の取り組みと成果～



生きるを、ともに、つくる。

公益社団法人 日本看護協会

新型コロナウイルス感染症に関する 看護協会の取り組みと成果

1. 看護職員確保
2. 現場支援
3. 国への要望
4. 看護の現場と国民をつなぐ

1. 看護職員確保について

- ナースセンターからの呼びかけで潜在看護職員996人が就業
- 特に「軽症者宿泊施設」の滞りない運営には潜在看護職員の力が大きかった

■ ナースセンターでの求職・求人実績

		(人)
相談・ 問合せ数	看護職	6,186
	施設	834
	その他	460
求職者数		2,901
求人数		1,629
紹介数		1,577
就業者数		996

(2020年6月29日時点)

■ 就業者の就業場所

	(人)
コロナ関連の相談対応コールセンター	248
軽症者宿泊施設	404
病院	34
診療所	3
その他の入所施設	17
その他施設	290

1. 看護職確保について 大阪府看護協会／軽症者宿泊施設の事例

4月に入り、新規感染者数の増大を受け、大阪府より軽症者宿泊施設の運営委託を受ける



「宿泊療養対応ナース募集」
の呼びかけ

個人防護具の着脱も含めた
感染防止対策のオリエンテーション

テレビ電話による現場との情報共有(毎日)
危険手当や個人防護具など物資の確保



「軽症者宿泊施設は私たちが引き受ける」～復職を申し出た238人の潜在看護師たち～

大阪府看護協会 高橋弘枝会長

1500床の軽症者施設「看護協会がやらずに誰がやる」

新型コロナウイルス感染症の拡大による医療崩壊を防ぐため、新たに導入された軽症者宿泊施設。ホテルや研修所に看護師が常駐し、24時間体制で健康管理を行う。

大阪府では3月下旬から感染者数が増え始め4月に入ってから連日100人に迫る人数の新規感染者が判明していた。「医療崩壊を防ぐために1500床の軽症者宿泊施設を整備したい」という相談を府から受けた高橋弘枝会長は「これはまさにナースングホームの運営だ」と思った。欧米で広がるナースングホームは、看護師が主体となって患者さんをケアする施設だ。「これを看護協会がやらないで誰がやるんだ」と職員たちも賛同し、思い切って看護師の募集・派遣だけではなく、ホテルとPCRセンターでの健康管理業務を一手に引き受けることにした。

予想を超える反響 手をあげた潜在看護師たち

とはいえ、それだけの患者に対応する数の看護師を集められるのかは未知数だった。どの施設でも人が足りずひっ迫している。果たして自分たちだけで集められるだろうか。

一方で、高橋さんらの脳裏には「これを潜在看護師たちに現場に戻ってもらうチャンスにしたい」との思いがあった。協会のウェブサイトで、自らの言葉で「宿泊療養対応ナース募集」を呼びかけると、想定を大きく超える238人の応募があった。

「本当に反響がすごくて。海外から帰ってきたJICAの職員や、大学院生、結婚後に休んでいた方、定年後の方…。次々に声をあげてくれて本当に有難かった。このことで大阪府も医師会も、看護師のことは看護協会ですぐいとおかんと信頼してくれるようになった」(高橋さん)



防護服着用のオリエンテーションの様子

※詳細は日本看護協会ホームページを参照ください https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/covid_19/case/minor.html#osaka

105人のナースで、宿泊者：延べ4,432人、PCR受検者：延べ1,023人に対応

(2020年5月31日現在)

- 相談対応
- 情報提供
- 個人防護具 (PPE) の配布

■ 新型コロナウイルス感染症に関する看護職の相談窓口

相談件数: **702件** (2020年6月29日時点)

相談区分	件数
感染管理	247
働き方	169
メンタルヘルス	68
ご意見・ご要望	99
感染予防相談窓口*	119

* : 2020年4月6~20日

<感染管理>

小規模病院、診療所、介護・福祉施設等からの相談が多い
→感染管理を専門とする看護職の配置が必要

病院 (～200床)	75
病院 (200～500床)	48
病院 (500床～)	15
診療所	33
介護・福祉施設等	38
訪問看護ステーション	13
保育園	11
その他	14

<働き方>

相談内容を国への要望に
→妊娠中の看護職員の代替職員の確保支援
→帰宅せず、ホテル等より出勤するときの宿泊費補助
→危険手当の支給 等

※相談件数の減少に伴い、現在は以下の要領で相談に対応している。
感染管理: 「新型コロナウイルス感染症に関する相談窓口」にて継続して受付・対応 働き方: 日本看護協会に常設の「はたらくナースの相談窓口」にて受付・対応 メンタルヘルス: 専門職による外部窓口を紹介(6月30日現在)

2. 現場支援 情報提供

- 感染予防および対策に関する資料・動画の公表
 - 感染管理の基本(資料)
 - 新型コロナウイルス感染症への対応の実際(動画)
 - 個人防護具の着脱 検体採取 3密を避ける実践例
ベッドサイドで行うケア 感染症対策とトリアージ
- 看護管理者に向けた情報提供
 - 新型コロナウイルス感染症への対応(マネジメント)
- 周産期に携わる看護職に向けた情報提供
 - 周産期FAQ(分娩取扱施設の感染管理・働き方等)
 - 相談窓口
 - 国・関連団体発出情報の共有
- 訪問看護ステーションで働く看護職に向けた情報提供
 - 訪問看護に関連した情報提供(感染予防・報酬)
 - 相談窓口
 - 国の発出情報の共有
- 感染管理・感染蔓延下での働き方に関するFAQ

2. 現場支援 PPEの配布

企業などからご寄附いただいたPPE(マスク、ガウン、フェイスシールドなど)等を都道府県看護協会を通じて医療機関などに配布

■ 配布実績

内容	数量
アイソレーションガウン	25,000
防護具	100
マスク	26,920
サージカルマスク	71,000
フェイスシールド	42,110
その他	

2020年6月26日現在

- 今後もお寄附については、必要なところにPPE等を届けることに活用
- 都道府県看護協会を通じて医療機関等に配布の予定

3. 国への要望 新型コロナウイルス感染症に関する要望と主な実現内容

■ 国への要望書の提出 計27件(2020年6月30日時点)

安倍総理大臣・西村内閣府特命担当大臣・加藤厚生労働大臣・萩生田文部科学大臣 等

■ 本会ホームページやマスコミ取材等を通じた課題と要望の発信

要望内容の一例	主な実現内容
<u>新型コロナウイルス感染症に対応する看護職員に対する経済的評価を</u>	<ul style="list-style-type: none">新型コロナウイルス感染症の重症・中等症患者を受け入れる医療機関の負担を考慮し、臨時特例的に、診療報酬について通常の「3倍」に相当する点数の算定を可能に第二次補正予算において、医療従事者等に対する慰労金の支給
<u>差別、偏見、風評被害をなくし看護職員への正しい理解を</u>	<ul style="list-style-type: none">医療従事者に対する差別や偏見の禁止に関し「政府広報」で周知厚生労働省が保育所の預かり拒否などに対応し事務連絡を都道府県等に対し発出
<u>妊娠中の看護職が安心して継続できる体制づくりを</u>	<ul style="list-style-type: none">男女雇用機会均等法の告示改正により、医師または助産師の指導があった場合には、妊娠中の女性労働者に対し、作業の制限、出勤の制限等、の必要な措置の義務付け

4. 看護の現場と国民をつなぐ

「#NursingNow_いま私にできること」 キャンペーン

日本の医療を救え

#NursingNow_いま私にできること

看護職へエールを！

Nursing now



医療従事者に感謝を込めてブルーにライトアップ

新型コロナウイルス感染症での 看護職の活動事例の発信

01. 感染管理認定看護師の活動
02. 軽症者施設における活動
03. 都道府県看護協会の取り組み
04. 中小病院、一般病院での活動
05. 看護管理者の活動
06. 患者家族のケア
07. 保健師の活動
08. 助産師の活動
09. 訪問看護における活動
10. 介護施設等における活動

日本看護協会公式ホームページにて6月25日より順次公表

認定看護師を中心に感染対策で成果

医療法人尚和会宝塚第一病院／感染管理認定看護師 雪田智子さん

「院内感染が発生した！？～そのとき感染管理認定看護師は～」

「この患者さんは、新型コロナウイルスに感染して入院してきたのかも知れない……」。病棟に緊張が走ったのは、患者の入院から10日後の朝のことだった。3月1日に救急搬送されてきた高齢男性。患者の感染に最初に気付いたのは感染管理認定看護師^{※1}の雪田智子さんだった。

別疾患で救急搬送されてきた患者

医療法人尚和会宝塚第一病院は、急性期病棟2つと地域包括ケア病棟を持つ199床の病院だ。地域密着型の救急病院で新型コロナウイルス感染症の患者の受け入れは行っていなかった。兵庫県では3月1日に最初の感染者が確認されていたが、まだ感染拡大への危機感が広がっていたわけではなかった。

院内の感染制御チーム（ICT^{※2}）の一員として、感染対策を指揮する立場にあった雪田さんは、院内の抗菌薬適正使用支援チーム（AST^{※3}）のカンファレンスで、この患者の胸部レントゲン画像を見ていた。肺炎所見はあったが、呼吸器症状が全くなく、当初は誰も新型コロナウイルス感染症だとは考えていなかった。

「これは、新型コロナウイルス感染症かもしれない……」

※詳細は日本看護協会ホームページを参照ください

https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/covid_19/case/cn_infectioncontrol.html#takaraduka



病棟の正面玄関でトリアージを行う看護師